



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 第一工業製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4461

URL <http://www.dks-web.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員

(氏名) 大柳 雅利

問合せ先責任者 (役職名) 取締役上席執行役員財務本部長

(氏名) 浦山 勇

TEL 075-323-5955

四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	40,611	2.2	1,523	△0.3	1,423	9.2	758	24.9
25年3月期第3四半期	39,730	△8.4	1,527	△8.6	1,303	△5.3	607	—

(注)包括利益 26年3月期第3四半期 1,215百万円 (64.5%) 25年3月期第3四半期 738百万円 (△8.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	17.79	17.78
25年3月期第3四半期	14.24	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	58,385	19,086	30.9	423.01
25年3月期	55,416	18,200	31.1	404.39

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 18,050百万円 25年3月期 17,256百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,500	7.1	2,100	19.7	1,900	23.0	1,000	25.5	23.43

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	43,421,609 株	25年3月期	43,421,609 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	750,569 株	25年3月期	749,246 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	42,671,957 株	25年3月期3Q	42,672,963 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー報告書を受領しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※金額単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、円安・株高を背景に、輸出や生産に加え設備投資にも持ち直しの動きがみられ、景気は着実に回復してきております。しかし、新興国など海外経済の先行きには不透明感があります。

化学業界におきましては、エネルギー価格の上昇や円安による基礎原料ナフサ価格の高騰が収益を大きく圧迫しており、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、この厳しい事業環境を乗り切るため、コア製品事業の拡販に努めますとともに、将来の成長分野である「環境」、「エネルギー」、「電子材料」、「生活資材」などの分野を中心に新規市場の開拓や新素材の開発に取り組み、原材料の安定的な確保や適正な採算確保、新コスト削減計画による総経費の削減活動などに取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は406億11百万円（前年同四半期比2.2%増）、営業利益は15億23百万円（前年同四半期比0.3%減）、経常利益は14億23百万円（前年同四半期比9.2%増）、四半期純利益は7億58百万円（前年同四半期比24.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、ゴム・プラスチック用途の活性剤は大きく落ち込みましたが、石鹼洗剤用途の活性剤は大幅に伸長し、金属用途の活性剤は好調に推移しました。

海外では、ゴム・プラスチック用途の活性剤は低調に推移しましたが、繊維用途の活性剤は好調に推移し、色材用途の活性剤は順調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は151億19百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

営業利益は、売上高が好調に推移したことや営業経費の削減が功を奏し8億85百万円（前年同四半期比10.4%増）となりました。

<アメニティ材料>

アメニティ材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、セルロース系高分子材料は飼料用途がやや低迷し、トイレットリー用途はやや低調に推移しましたが、紙パルプ用途は堅調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移しました。

海外では、セルロース系高分子材料は医薬品用途がやや低調に推移しましたが、食品用途は順調に推移しました。シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移し、食品用途は新規開発が実り大幅に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は53億74百万円（前年同四半期比2.8%増）となりました。

営業利益は、高付加価値品の売上高が大幅に伸長し3億10百万円（前年同四半期比22.2%増）となりました。

<ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

ゴム・プラスチック用途は需要回復が鈍くやや低迷しましたが、公共工事の増加により建築用材料及び土木用薬剤は伸長し、重防食塗料用途は好調に推移しました。フロム規制に関連する環境対応型の合成潤滑油は顕著に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は70億66百万円（前年同四半期比12.4%増）となりました。

営業利益は、原材料費の高騰や営業経費がかさみ1億19百万円（前年同四半期比24.9%減）となりました。

<機能材料>

機能材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、臭素系の難燃剤は建築材料用途などの需要が旺盛となり顕著に伸長しました。光硬化樹脂用材料は電子材料用途が順調に推移しました。水系ウレタン樹脂は塗料用途や鋼板向け用途が低調に推移しましたが、フィルム用途やガラス繊維用途は好調に推移しました。

海外では、光硬化樹脂用材料は電子材料用途がやや低迷しました。臭素系の難燃剤はデジタル家電用途の需要低迷により顕著に落ち込みましたが、電気・電子材料用途のリン系の難燃剤は顕著に伸長しました。

その結果、当事業の売上高は78億34百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

営業利益は、価格競争の激化に加え原材料費の高騰や営業経費がかさみ2億10百万円（前年同四半期比14.0%減）となりました。

<電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

太陽電池用途の導電性ペーストは顕著に落ち込みました。射出成形用ペレットは好調に推移し、機能性無機材料は低調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は52億15百万円（前年同四半期比10.1%減）となりました。

当事業は、売上高の落ち込みが響き2百万円の営業損失（前年同四半期は68百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ29億68百万円増加し、583億85百万円となりました。その主な要因は、商品及び製品などのたな卸資産の合計が8億71百万円減少しましたが、現金及び預金が27億16百万円、受取手形及び売掛金が13億12百万円増加したことなどによるものです。

負債は前連結会計年度末と比べ20億83百万円増加し、392億98百万円となりました。その主な要因は、リース債務（流動負債）が8億58百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が9億38百万円、短期借入金が2億81百万円、長期借入金が21億21百万円増加したことなどによるものです。

純資産は前連結会計年度末と比べ8億85百万円増加し、190億86百万円となりました。その主な要因は、配当金の支払2億98百万円や当四半期純利益7億58百万円の計上などにより利益剰余金が4億60百万円、株高や円安の影響からその他有価証券評価差額金が1億58百万円、為替換算調整勘定が1億99百万円増加したことなどによるものです。

また、自己資本比率は、前期末と比べて0.2ポイント悪化し30.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年5月10日付で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,782	9,498
受取手形及び売掛金	13,717	15,030
商品及び製品	6,552	5,714
仕掛品	44	46
原材料及び貯蔵品	1,752	1,716
前払費用	203	144
繰延税金資産	315	213
その他	1,305	1,438
貸倒引当金	△12	△17
流動資産合計	30,661	33,787
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,103	7,875
機械装置及び運搬具（純額）	2,928	3,590
工具、器具及び備品（純額）	455	412
土地	6,375	6,554
リース資産（純額）	1,495	653
建設仮勘定	1,052	1,101
有形固定資産合計	20,411	20,188
無形固定資産		
その他	473	420
無形固定資産合計	473	420
投資その他の資産		
投資有価証券	2,978	3,237
長期貸付金	27	30
長期前払費用	293	238
繰延税金資産	224	139
その他	358	356
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	3,870	3,989
固定資産合計	24,754	24,597
資産合計	55,416	58,385

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,174	12,113
短期借入金	9,862	10,143
リース債務	1,193	335
未払法人税等	298	139
賞与引当金	484	287
環境対策引当金	1	—
未払事業所税	29	23
未払費用	253	257
その他	2,471	2,576
流動負債合計	25,770	25,877
固定負債		
長期借入金	8,849	10,971
リース債務	761	739
繰延税金負債	84	69
退職給付引当金	1,411	1,298
資産除去債務	70	71
その他	267	270
固定負債合計	11,445	13,421
負債合計	37,215	39,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,141	7,141
資本剰余金	5,470	5,470
利益剰余金	4,970	5,430
自己株式	△197	△197
株主資本合計	17,384	17,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34	124
繰延ヘッジ損益	—	△23
為替換算調整勘定	△94	104
その他の包括利益累計額合計	△128	205
新株予約権	16	16
少数株主持分	927	1,019
純資産合計	18,200	19,086
負債純資産合計	55,416	58,385

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	39,730	40,611
売上原価	31,702	32,209
売上総利益	8,027	8,401
販売費及び一般管理費	6,500	6,877
営業利益	1,527	1,523
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	23	23
持分法による投資利益	48	50
為替差益	20	45
その他	47	71
営業外収益合計	141	194
営業外費用		
支払利息	212	215
その他	152	79
営業外費用合計	364	294
経常利益	1,303	1,423
特別損失		
減損損失	133	72
固定資産処分損	38	28
特別損失合計	171	100
税金等調整前四半期純利益	1,131	1,323
法人税、住民税及び事業税	326	322
法人税等調整額	135	176
法人税等合計	461	499
少数株主損益調整前四半期純利益	669	824
少数株主利益	61	65
四半期純利益	607	758

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	669	824
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36	156
繰延ヘッジ損益	△0	△23
為替換算調整勘定	31	196
持分法適用会社に対する持分相当額	0	61
その他の包括利益合計	69	390
四半期包括利益	738	1,215
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	662	1,093
少数株主に係る四半期包括利益	76	121

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	14,914	5,230	6,287	7,495	5,802	39,730
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,914	5,230	6,287	7,495	5,802	39,730
セグメント利益(営業利益)	801	254	158	244	68	1,527

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アメニティ材料」セグメントにおいて、セルロース系高分子製品専用製造設備のうち、老朽化が激しく将来稼働する見込みがない一部の設備について廃棄処分することを決定いたしました。これに伴い、廃棄処分が決定した設備については将来のキャッシュ・イン・フローが見込めないため、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては133百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	15,119	5,374	7,066	7,834	5,215	40,611
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,119	5,374	7,066	7,834	5,215	40,611
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	885	310	119	210	△2	1,523

(注) 報告セグメント利益または損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「電子デバイス材料」セグメントにおいて、双一力(天津)新能源有限公司が営むリチウムイオンポリマー電池事業については、新商品の開発の遅れや価格競争の激化等により収益性が長期にわたって低下しており、現時点では将来のキャッシュ・イン・フローの生成が見込めず売却の可能性も極めて低いことから、減損認識時点における同社事業にかかる資産グループの帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

また、同社に係るのれんについては、想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、減損認識時点における帳簿価額の全額を特別損失として減損損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては72百万円であります。